

妊娠中の睡眠時間と新生児出生体重の関連—エコチル調査より—

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村田, 強志, 経塚, 標, 福田, 冬馬, 安田, 俊, 山口, 明子, 諸隈, 誠一, 佐藤, 晶子, 尾形, 優香, 篠木, 恒成, 細矢, 光亮, 安村, 誠司, 橋本, 浩一, 西郡, 秀和, 藤森, 敬也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004024

第 10 回日本 DOHaD 学会

<一般口演 5>

妊娠中の睡眠時間と新生児出生体重の関連—エコチル調査より—

1.エコチル調査福島ユニットセンター、2.福島県立医科大学産科婦人科学講座、3.九州大学大学院医学研究院保健学部門、4.福島県立医科大学小児科学講座、5.福島県立医科大学公衆衛生学講座、6.福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター

村田 強志 1,2

経塚標 1,2、福田冬馬 1,2、安田俊 1,2、山口明子 1,2、諸隈誠一 3、佐藤晶子 1、尾形優香 1、篠木恒成 1、細矢光亮 1,4、安村誠司 1,5、橋本浩一 1,4、西郡秀和 1,6、藤森敬也 1,2

【背景】低出生体重児や small-for-gestational age (SGA) 児は新生児死亡のリスクであり、さらに将来の生活習慣病発症のリスクである。新生児の出生体重は食事や妊娠中の体重増加といった生活習慣の影響を受けることが知られているが、低出生体重児や SGA 児を防ぐための最適な睡眠時間は不明である。今回我々は、エコチル調査のデータを用いて、妊娠中の睡眠時間と低出生体重児、SGA 児出生との関連について調べた。

【方法】2011 年から 2014 年に登録された妊婦のエコチル調査のデータを用い、自己回答による妊娠中期の睡眠時間と低出生体重児、SGA 児の出生の関連について、ロジスティック回帰分析を用いて解析した。睡眠時間は 5 つの群、6 時間未満、6 時間以上 8 時間未満、8 時間以上 9 時間未満、9 時間以上 10 時間未満、10 時間以上 12 時間以下に分類した。厚生労働省で一般成人について推奨されている 6 時間以上 8 時間未満の睡眠時間の妊婦を対照群とし、妊婦の年齢、妊娠前 BMI、喫煙、学歴、収入、妊娠中の体重増加を共変量とした。さらに妊娠中の体重増加が 12kg 未満の群と 12kg 以上の群にわたる層別化解析を行った。

【結果】82,171 人の妊婦を対象とした。睡眠時間が 6 時間未満の群が 3958 人(4.8%)、6 時間以上 8 時間未満の群が 37,944 人(46.2%)、8 時間以上 9 時間未満の群が 23,769 人(28.9%)、9 時間以上 10 時間未満の群が 11,976 人(14.6%)、10 時間以上 12 時間以下の群が 4,524 人(5.5%)であった。全体の解析結果では有意差を認めなかったが、体重増加が 12kg 未満の妊婦のみの層別化解析では、睡眠時間が 9 時間以上 10 時間未満の群では、低出生体重児と SGA 児出生の調整オッズ比(95%信頼区間)がそれぞれ 0.88(0.80-0.97)、0.87(0.78-0.97)であった。

【結論】新生児出生体重は妊娠中の体重増加の影響を大きく受けるため、12kg 未満の体重増加の妊婦においては、6 時間以上 8 時間未満の睡眠時間と比較して、9 時間以上 10 時間未満の睡眠時間は低出生体重児や SGA 児出生の減少と関連があった。本研究結果は妊娠中の最適な睡眠時間の策定に供する可能性がある。